第12講　日本の近代思想①

1　啓蒙(けいもう)思想と自由民権思想

①啓蒙思想の導入―明治前期―

西洋から導入された**啓蒙思想**とは，伝統的な権威・因習を否定し，理性を重視して社会や生活を見直そうとする考え。「家」を基盤とする身分制度が支配していた江戸時代の儒教的価値観に対し，明治維新の**文明開化**の風潮の下(もと)で西洋的な「個人」を基盤とする新たな思想が展開された。

A　**天賦(てんぷ)人権論**

西洋の自然権・人権思想を，儒教的な「天」という観念を通し導入した発想。**全ての人は生まれながらにして自由・平等な権利を天から授けられている**，という考え。

B　**明六社**（1873年～75年）

日本初の学術団体。翌年から『明六雑誌』を発行し，西洋文化や啓蒙思想を日本人に解りやすく紹介した。

C　**森有礼(もりありのり)**（1847～89年）→明六社の社長

薩摩藩（鹿児島県）出身。幕末の英米留学から帰国後,**明六社を結成**する。アメリカでキリスト教に出会い，男女同権・一夫一婦制の影響を受け，夫婦の相互的な権利と義務に基づく結婚形態を提唱し，自ら実践した。のち初代文部大臣として学校令を制定。主著『妻妾(さいしょう)論』。

D　**西村茂樹(しげき)**（1828～97年）→明六社に参加

急激な西洋化による道徳秩序の混乱を危惧(きぐ)し，儒教を土台に西洋哲学を取り入れ，皇室崇拝を中心とした新たな**国民道徳**を提唱。普及団体である日本弘道会(こうどうかい)を組織して，国粋主義の先駆となった。主著『**日本道徳論**』。

※学校教育にも影響力をもち，**教育勅語**（1890年）の制定を促した。

E　**西周(にしあまね)**（1829～97年）→明六社に参加

幕末，津田真道(まみち)（1829～1903年，法学者）らとともにオランダに留学。帰国後，幕府や明治政府に出仕。**「哲学」「理性」「主観」「現象」など数々の用語を案出**し，西洋哲学を受け入れる基礎をつくり上げた。『軍人勅諭(ちょくゆ)』の起草者としても有名。

F　**加藤弘之(ひろゆき)**（1836～1916年）→明六社に参加

佐久間象山らに洋学を学び，幕府の学問所へ出仕し，幕末から明治維新にかけ**立憲制や天賦人権論を日本に紹介**し，民権論の立場に立った。のち，

イギリスの進化論に影響を受け，優勝劣敗の考えに基づき**国権論**に転換した。主著『国体新論』『人権新説』。

G　**中村正直**（1832～91年）→明六社に参加

幕府の昌平坂学問所教授であったが，洋学研究を志しイギリスに留学。維新後，個人主義的な啓蒙思想を日本に紹介した。

※彼が手掛けたスマイルズ『自助論』の翻訳『西国立志編』や，ミル『自由論』の翻訳『自由之理』は，明治前期の青年に広く読まれた。

H　**福沢諭吉**（1835～1901年）→明六社に参加

1　人物

豊前国（大分県）中津藩士に生まれる。20歳で大坂に出て，緒方洪庵の**適塾で蘭学を学ぶ**。３年後，江戸で蘭学を教えるようになるが，英語の必要性を感じ，独修した。幕末，３度にわたり欧米諸国を巡歴，啓蒙思想家となる。明治元年に**慶應義塾**を創設。一度も新政府に出仕することなく，教育者としての立場を全うした。主著**『学問のすゝめ』『西洋事情』『文明論之概略』**。

※下級武士出身で不遇だった父を思い，のちに「門閥制度は親の敵でござる」と語った。

※急進的な民権論を否定し，国権論と両立できるような民権論を徐々に広めていくべき（＝官民調和）と考えていた。

2　**脱亜論**（1885年，新聞『時事新報』紙上に発表）

晩年の福沢諭吉は，当時の世界を野蛮・半開（東アジア）・文明（欧米）の３段階に分け，現状は半開国の日本も，積極的に文明国を目指すべきと考えた。

※清・朝鮮と歩調を合わせることのない“脱亜入欧”路線に，国と国民が一致して向かうことを説いた。

3　福沢諭吉のことば

あ　**「天は人の上に人を造らず，人の下に人を造らずと云えり」**

『学問のすゝめ』の冒頭で，**天賦人権論**を主張。

い　**「一身独立して一国独立す」**

独立自尊の精神（＝**独立心**）を育てることと，**数理学**（＝西洋の近代諸科学）の導入による文明化こそが，列強が進出するアジアの中で，日本が独立国家として歩むべき道であるとした。

う　**「人間普通日用に近き実学」**

東洋の学問を実生活に役立たない虚学(きょがく)，西洋の学問を実生活に役立つ**実学**と呼び，実学を学ぶ必要性を説いた。

②自由民権思想―明治前期―

西洋からは，急進的な**民権論**も導入された。明治新政府は，薩摩・長州などの藩閥が強権を誇ったことから，憲法制定を前提に**国会開設**を求める**自由民権運動**が起きた。幅広い国民の意見を活かした政治運営をすべき，という近代民主主義の発想は，政府内でも反対者は少なかったので，**開設の時期が争点**となった。

※**民権論は「国民」の権利優先，国権論は「国家」の利益優先**という考えだが，明治期の日本においては，「富国強兵・殖産興業(しょくさんこうぎょう)」をスローガンに不平等条約の改正を目指す，という意識は一致していた。

※フランス流（ルソーなど）の急進的民権論は，**板垣退助**（土佐藩出身）らの自由党が中心。イギリス流（ミルなど）の漸進的(ぜんしんてき)民権論は，**大隈重信**（肥前藩出身）らの立憲改進党が中心。

A　**中江兆民(なかえちょうみん)**（1847 ～ 1901 年）➞フランス流急進派

土佐藩（高知県）出身。フランス留学から帰国後，ルソーの『**社会契約論**』の翻訳『**民約訳解(みんやくやくかい)**』を出版して**「東洋のルソー」**と呼ばれ，自由党の中心人物の一人となった。

※また，民主主義者・侵略主義者・現実主義者の３名が語り合うという内容の『**三酔人経綸問答(さんすいじんけいりんもんどう)**』を著し，人民の権利には，民衆が国家から勝ち取る**恢復的(かいふくてき)〔回復的〕民権**と，国家が民衆に与える**恩賜的(おんしてき)民権**があり，天皇が与えた恩賜的民権を恢復的民権に変えていくべき，と主張した。

※晩年には『**一年有半(いちねんゆうはん)**』『続一年有半』を著し，神や霊魂(れいこん)の存在を否定するなど独自の唯物論を提唱しつつ，明治期の日本を批判した。

B　**植木枝盛(うえきえもり)**（1857 ～ 92 年）➞フランス流急進派

土佐藩（高知県）出身。国は人民により成立するものである，と平易に民権思想を説き，自由党の中心人物の一人となった。主著『民権自由論』。

※主権在民をうたい，国家・政府に対する抵抗権を認める私擬憲法案(しぎけんぽうあん)『**東洋大日本国国権按(あん)**』を起草した。

２　国家主義と社会主義

①国家主義思想〔右翼思想〕―明治中期―

激動の中で西洋文明を受け止め対処していく際にこそ，日本という国家，日本人という民族の自覚が生まれる。江戸時代には「藩＝国」という意識だったが，明治時代中期，**日清戦争（1894 ～ 95 年）**，**日露戦争（1904 ～ 05 年）**という危機的状況を共有するにあたり，国家の利益を最優先する**国家主義**が台頭した。

A　**国粋（こくすい）主義**〔国粋保存主義〕

日本の歴史・文化・政治などを他国より優れたものとし，それを維持し発揚（はつよう）しようとする思想。**三宅雪嶺（みやけせつれい）**（1860 ～ 1945 年）・志賀重昂（しがしげたか）（1863 ～ 1927 年）・**陸羯南（くがかつなん）**（1857 ～ 1907 年）らは，西洋文明の受容には慎重であるべきと説き，日本の伝統や国情に即した改革を主張して欧化主義を批判した。一方で，世界人類の幸福実現に対する，日本人の使命の自覚も強調した。

※三宅雪嶺・志賀重昂らが結成した政教社は**雑誌『日本人』**を，陸羯南は新聞『日本』を創刊したが，のち合体して雑誌『日本及（および）日本人』となった。

B　**平民主義**〔平民的欧化主義〕→“下からの近代化”を主張

徳富蘇峰（とくとみそほう）（1863 ～ 1957 年）が民友社を結成し，雑誌『国民之（の）友』，新聞『国民新聞』を創刊。政府の表層的な欧化主義を批判して，上層階級ではなく平民による近代化を説いた。

※徳富蘇峰は，**日清戦争を契機に国家主義に転向**した。

C　日本文化の紹介

東京美術学校の初代校長もつとめた**岡倉天心（てんしん）〔覚三（かくぞう）〕**（1862 ～ 1913 年）が，『東洋の理想』『茶の本』などの英文著作を海外で出版。

②社会主義思想〔左翼思想〕―明治後期―

日清・日露戦争の頃，産業革命が進展して資本主義が成立。有産階級〔資本家・ブルジョワジー〕と無産階級〔労働者・プロレタリアート〕が発生した。私有財産制を否定し，生産手段の公有をめざす社会主義思想も，この頃から意識されるようになった。

A　**社会民主党**（1901年，非合法）

初の社会主義政党であったが，結成直後に治安警察法で解党に追い込まれた。

※1906年には合法的な日本社会党が結成されたが，これも2年後に解党した。

B　キリスト教的人道主義から社会主義に接近した人物

あ　**安部磯雄**（1865～1949年）・**片山潜**（1859～1933年）

1897年，アメリカから帰国後，初の全国的労働団体である労働組合期成会を結成。

い　**木下尚江**（1869～1937年）

売春廃止に取り組む廃娼運動や，足尾銅山鉱毒事件の解決に積極的に関わる。

C　**幸徳秋水**（1871～1911年）→無政府主義的社会主義者

師の中江兆民から急進的な自由民権思想の影響を受け，社会主義者となる。日露戦争前に新聞『万朝報』記者を退職，堺利彦（1870～1933年）とともに**平民社**を結成し**『平民新聞』**を創刊して反戦論を展開した。のちアメリカに渡り，無政府主義〔アナーキズム〕の影響を受けて帰国。1910年，明治天皇暗殺計画に関与の疑いをかけられ，翌年処刑された（＝**大逆事件**）。主著『廿世紀之怪物帝国主義』『社会主義神髄』。

D　その他の社会主義者

あ　**石川啄木**（1886～1912年）

ロマン主義の歌人・詩人として，貧窮の中で『一握の砂』『悲しき玩具』などを発表。のち評論『時代閉塞の現状』を書き，社会主義に傾倒した。

い　**河上肇**（1879～1946年）→大正・昭和前期

『貧乏物語』を著したのち，代表的なマルクス主義経済学者となる。

う　賀川豊彦（1888～1960年）→大正・昭和前期

キリスト教徒の社会運動家。神戸の貧民街を拠点に，農民運動・労働組合運動・生活協同組合運動に取り組んだ。自伝『死線を超えて』は，戦前の大ベストセラー。

〈 ***Note*** 〉

３　キリスト教の受容

大日本帝国憲法上で信教の自由が認められたこともあり，江戸時代には禁止されていた**キリスト教**が，**プロテスタント〔新教〕**を中心に広まっていった。同時に，西洋人が育んできた宗教を，日本人がどのように受け止めるかが問題となった。

①京都バンドー同志社英学校グループー

A　**新島襄**（1843 ～ 90 年）

上野国（群馬県）安中藩士。幕末に国禁を犯し渡米，苦学の末に神学を修めて帰国。1875 年，**京都**に**同志社**英学校を創設し，多くの人材を育てた。

※海老名弾正・徳富蘇峰ら熊本バンド（＝熊本洋学校グループ）は，のち同志社で学んだ。

B　小崎弘道（1856 ～ 1938 年）

熊本洋学校のち同志社に学ぶ。東京に出て牧師となり，ＹＭＣＡ〔キリスト教青年会〕を創設。

C　山室軍平（1872 ～ 1940 年）

同志社で学ぶ。キリスト教の博愛精神に基づき，困窮した民衆を救う日本救世軍を創設。廃娼運動にも取り組んだ。

※救世軍はイギリスが発祥。

②札幌バンド－札幌農学校グループ－

A　**内村鑑三**(かんぞう)（1861 ～ 1930 年）

クラーク退任後の**札幌農学校**でキリスト教に出会う。のち渡米するが，アメリカ社会に絶望。日本は信義を重んじる国であり，拝金主義・根強い偏見が蔓延(まんえん)する欧米よりも，真のキリスト教が根付く国であると説いた。彼は，人間は神の前に独り立つ存在であり，教会や儀式にとらわれず聖書を重んじるべきとして，**無教会主義**の立場をとった。**足尾銅山鉱毒事件**の解決に奔走した**田中正造**(しょうぞう)を，木下尚江・幸徳秋水らとともに支援したことでも有名。主著『**余**(よ)**は如何**(いか)**にして基督信徒**(キリストしんと)**となりし乎**(か)』『基督信徒のなぐさめ』『**代表的日本人**』。

※イエス（Jesus）への愛と日本（Japan）への愛（＝**２つのＪ**）は矛盾するものではなく，日本の伝統的文化，特に武士道を土台にキリスト教を信仰することから，自らのキリスト教を**「武士道に接木**(つぎき)**されたるキリスト教」**であるとした。

※第一高等中学校講師の時，キリスト教徒の立場から教育勅語へ敬礼をせず，**不敬事件**として免職され，哲学者の**井上哲次郎**からは論文「教育と宗教の衝突」で非難された。

※その後，新聞『万朝報(よろずちょうほう)』で幸徳秋水や堺利彦とともに勤務したが，日本は軍事的国家としてではなく，イエスへの愛と信仰に基づいた道義的国家として世界の中に存在しなくてはならない，と日露戦争には**非戦論**の立場をとり，退職することになった。

B　**新渡戸稲造**(にとべいなぞう)（1862 ～ 1933 年）

内村鑑三とともにクラーク退任後の**札幌農学校**でキリスト教に出会い，アメリカ・ドイツに留学。クエーカー派の影響を強く受けた。日本人は武士道を土台としてキリスト教精神を育むべきと説き，英文で**『武士道』**を著して欧米に日本精神を紹介した。

※青年時から「太平洋の懸け橋とならん」ことを志し，国際連盟の事務次長となるなど，国際社会でも活躍した。

③横浜バンド

植村正久(うえむらまさひさ)が横浜の教会で入信。東京神学社を創立して伝道者の育成にあたる。彼は，国家主義的風潮に対し激しく抵抗した。

第12講　倫理確認テスト

1　明六社を結成し，社長となった人物は？

①　森有礼　　②　加藤弘之　　③　西周　　④　中村正直

2　皇室崇拝を中心とした新たな国民道徳を提唱し，『日本道徳論』を著した人物は？

①　井上哲次郎　　②　西村茂樹　　③　植木枝盛　　④　徳富蘇峰

3　福沢諭吉の著書としてふさわしくないものを一つ選べ。

①　『学問のすゝめ』　　②　『西洋事情』

③　『文明論之概略』　　④　『西国立志編』

4　「東洋のルソー」と呼ばれた民権思想家は？

①　板垣退助　　②　中江兆民　　③　植木枝盛　　④　木下尚江

5　国粋主義者としてふさわしくない人物を一人選べ。

①　三宅雪嶺　　②　志賀重昂　　③　陸羯南　　④　植村正久

6　幸徳秋水・堺利彦らが結成した平民社が創刊した機関紙とは？

①　『明六雑誌』　　②　雑誌『日本人』

③　雑誌『国民之友』　　④　『平民新聞』

7　河上肇の著書を一つ選べ。

①　『妻妾論』　　②　『人権新説』

③　『貧乏物語』　　④　『廿世紀之怪物帝国主義』

8　京都に同志社英学校を設立した人物は？

①　福沢諭吉　　②　大隈重信　　③　新島襄　　④　新渡戸稲造

9　内村鑑三や新渡戸稲造が学んだ学校とは？

①　昌平坂学問所　　②　慶應義塾　　③　同志社　　④　札幌農学校

10　内村鑑三が第一高等中学校で起こした事件とは？

①　不敬事件　　②　足尾銅山鉱毒事件

③　大逆事件　　④　二・二六事件

解答

1	①	2	②	3	④	4	②	5	④
6	④	7	③	8	③	9	④	10	①